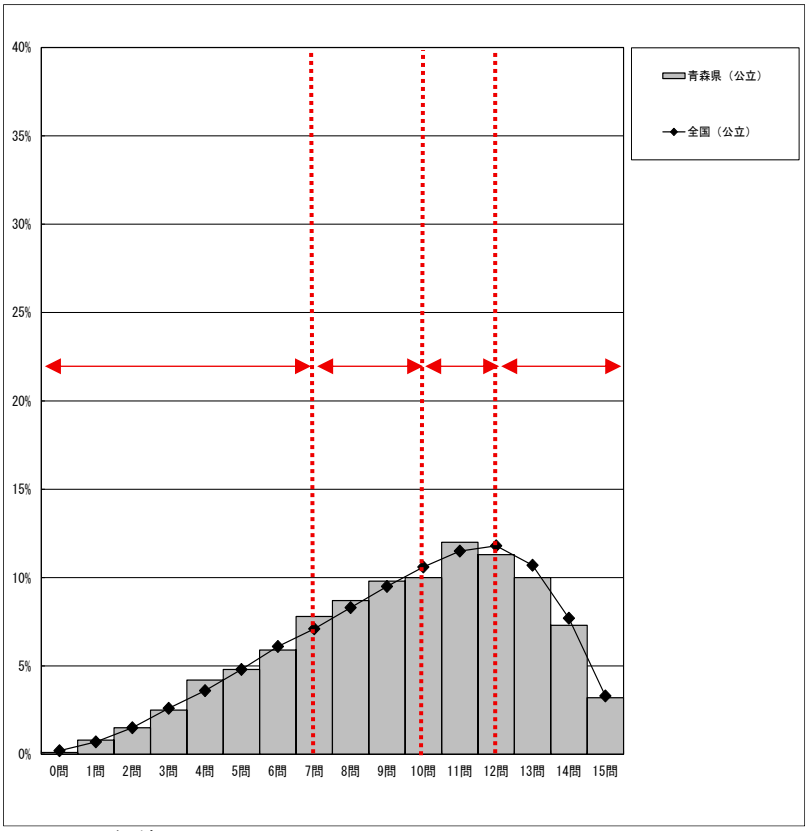
Ⅲ 中学校

Ⅰ 正答数

①国語

・正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答数	青森県(%)	全国(%)
15問	3.2	3.3
14問	7.3	7.7
13問	10.0	10.7
12問	11.3	11.8
11問	12.0	11.5
10問	10.0	10.6
9問	9.8	9.5
8問	8.7	8.3
7問	7.8	7.1
6問	5.9	6.1
5問	4.8	4.8
4問	4.2	3.6
3問	2.5	2.6
2問	1.5	1.5
1問	0.8	0.7
0問	0.1	0.2

・四分位

	青森県（公立）	全国（公立）
第3四分位	12.0問	12.0問
第2四分位	10.0問	10.0問
第1四分位	7.0問	7.0問

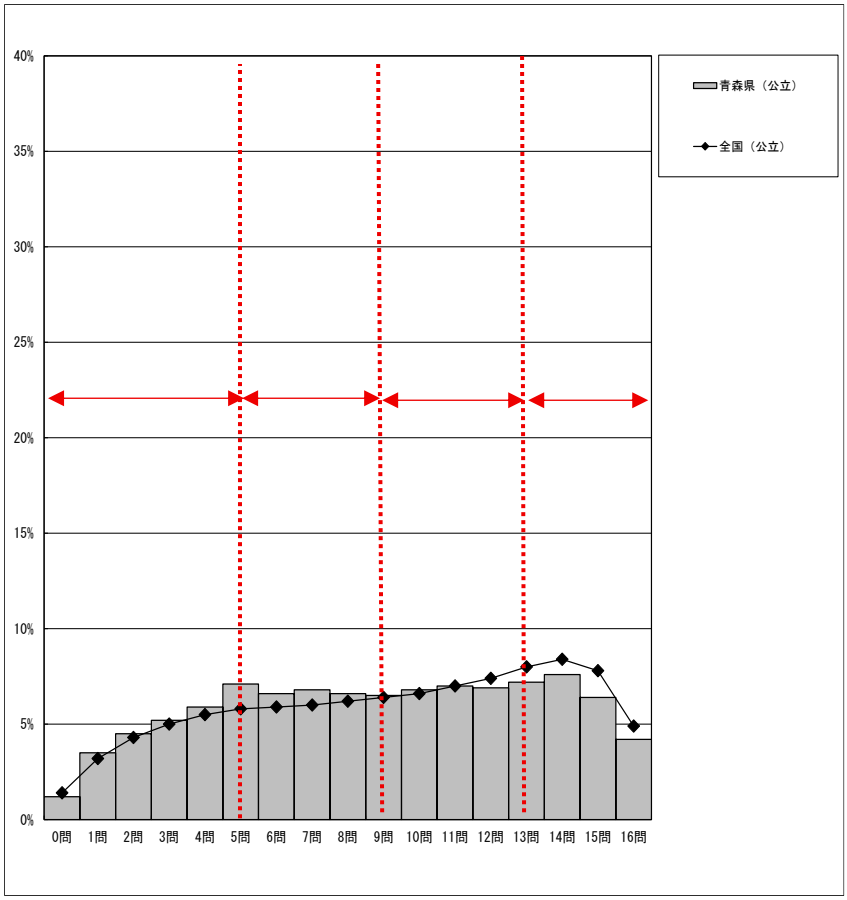
【ミニ解説】四分位（しぶんい）とは？
・データを小さい順に並べたとき、全体を4等分する（25%ずつ）3つの区切りのことです。
・データの散らばり具合を知るために使います。
第3四分位　下から75%の位置
第2四分位　50%の位置（中央値）
第1四分位　下から25%の位置

□正答数分布グラフ・表
・正答数10問以上の割合は、全国を下回っている。
・正答数9問以下の場合は、全国を上回っている。
□四分位表
・第1四分位、第２四分位、第3四分位とも、全国と同じである。

○正答数の分布傾向は、全国と類似した状況と捉えられる。

②数学

・正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：割合）



正答数	青森県%	全国%
16問	4.2	4.9
15問	6.4	7.8
14問	7.6	8.4
13問	7.2	8.0
12問	6.9	7.4
11問	7.0	7.0
10問	6.8	6.6
9問	6.5	6.4
8問	6.6	6.2
7問	6.8	6.0
6問	6.6	5.9
5問	7.1	5.8
4問	5.9	5.5
3問	5.2	5.0
2問	4.5	4.3
1問	3.5	3.2
0問	1.2	1.4

・四分位

	青森県（公立）	全国（公立）
第3四分位	13.0問	13.0問
第2四分位	9.0問	10.0問
第1四分位	5.0問	5.0問

【ミニ解説】四分位（しぶんい）とは？

・データを小さい順に並べたとき、全体を4等分する（25%ずつ）3つの区切りのことです。

・データの散らばり具合を知るために使います。

第3四分位　下から75%の位置

第2四分位　50%の位置（中央値）

第1四分位　下から25%の位置

□正答数分布グラフ・表

・最頻値が14問であり、全国と同じである。

・正答数0問の割合は、全国を下回っている。

・正答数12問～16問の割合は、全国を下回っている。

・正答数1問～10問の割合は、全国を上回っている。

□四分位表

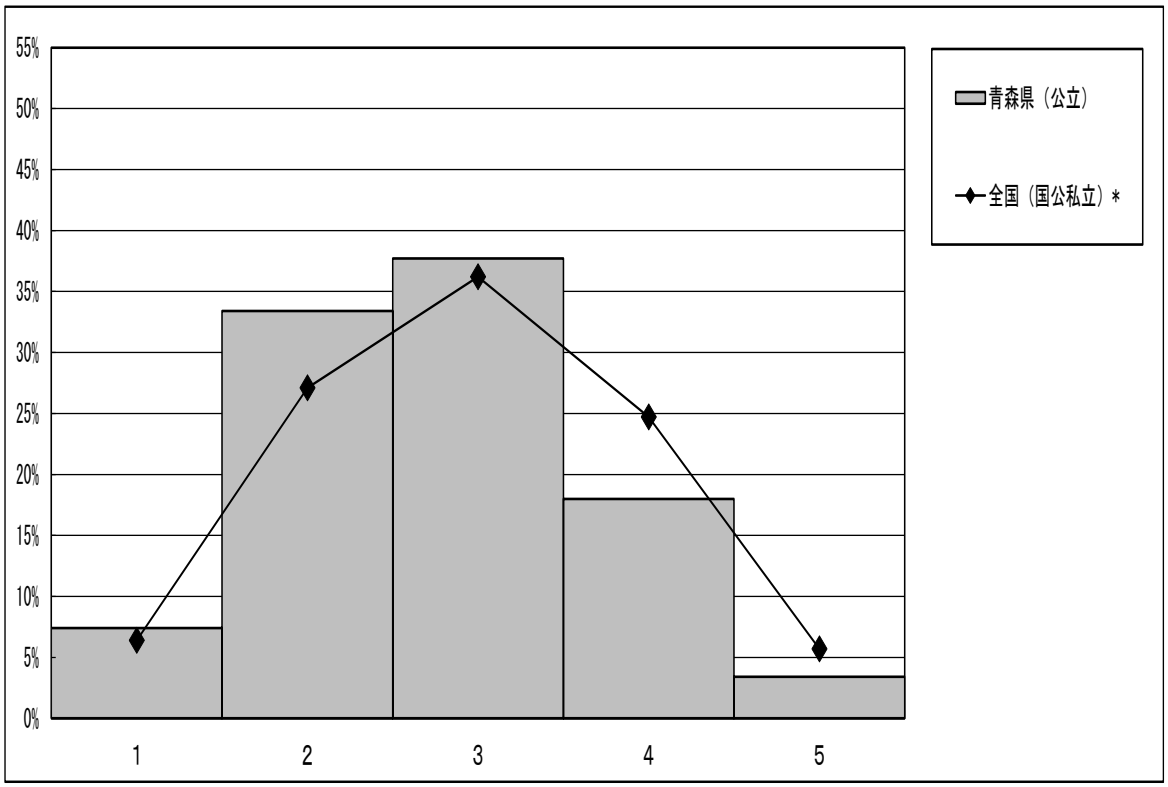
・第1四分位数と第3四分位数は、全国と同じである。

・第2四分位数（中央値）は、全国を下回っている。

○分布全体の様子から本県の正答数は、全国と類似した状況と捉えられる。

③英語（4技能）

・IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド 縦軸：割合）



IRTバンド集計値		
IRT バンド	割合(%)	
	青森県（公立）	全国（国公私立）
5	3.4	5.7
4	18.0	24.7
3	37.7	36.2
2	33.4	27.1
1	7.4	6.4

※「話すこと」は、全国（国公私立）での公表であったため、左のＩＲＴバンド集計値が全国（国公私立）となっている。

※昨年度から採用された IRT バンドは、IRT スコアを 1～5 の 5 段階に区切ったものである。
3を基準のバンドとし、5 が最も高いバンドとなる。

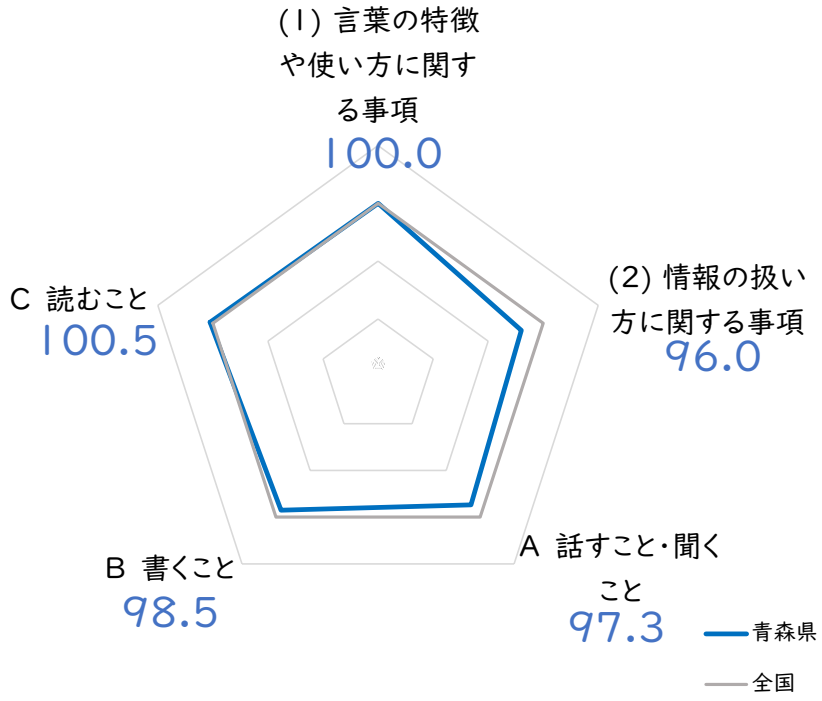
□IRT バンド分布グラフ・IRT バンド集計値
・IRT バンド1、2、3の割合は、全国を上回っている。
・IRT バンド4、5、の割合は、全国を下回っている。

○IRT バンドの分布の傾向は、全国と類似した状況と捉えられる。

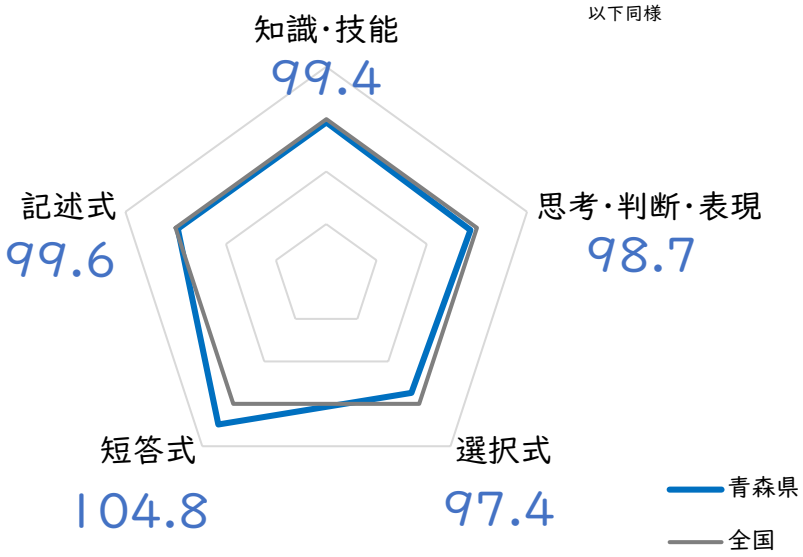
2 正答率

①学習指導要領の内容及び評価の観点、問題形式

(ア) 国語

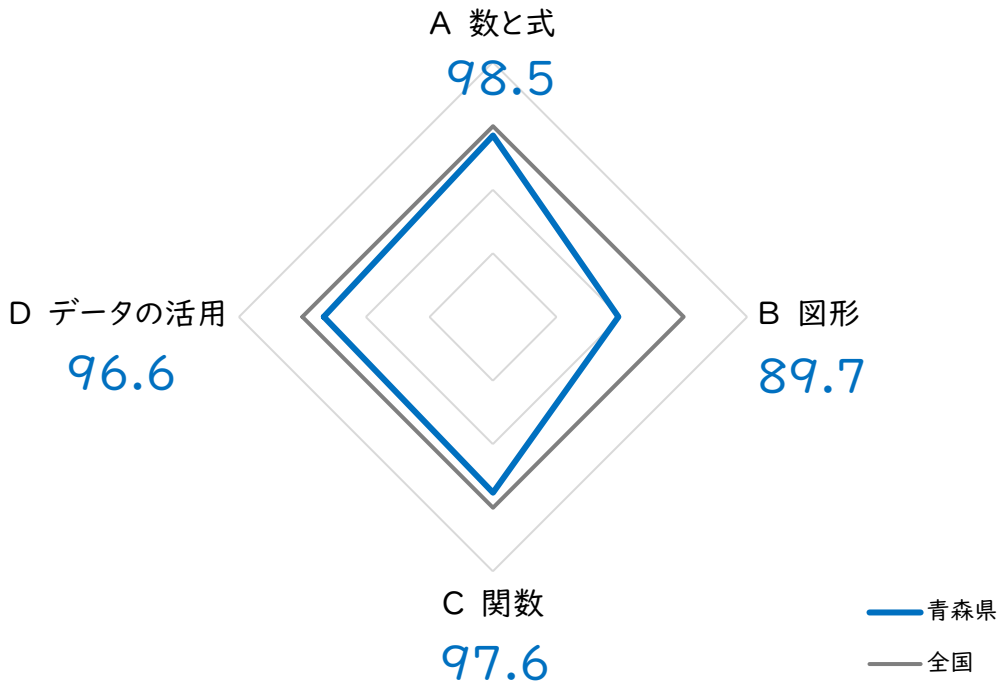


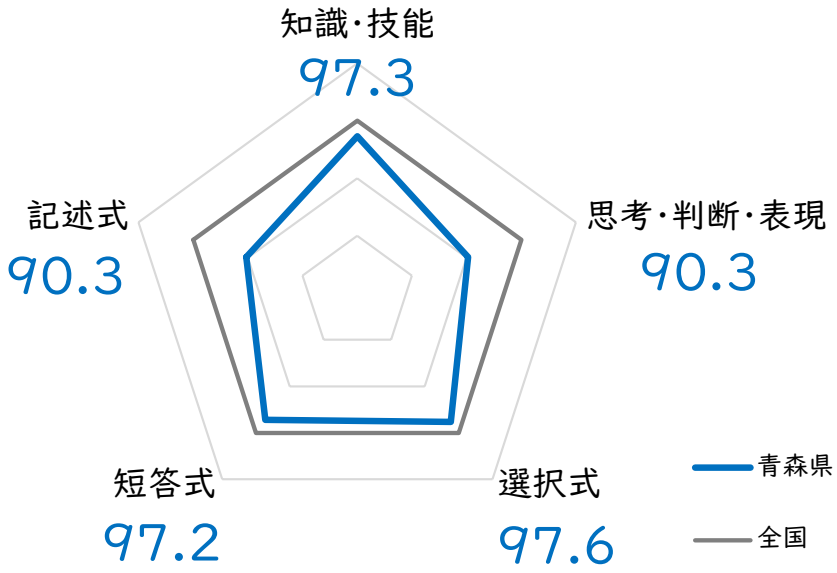
※全国を 100 とした時の本県の割合
以下同様



・内容別では、「C読むこと」が全国を上回っている。「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」が全国と同じである。「(2) 情報の扱い方に関する事項」、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」が全国を下回っている。
・評価の観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに全国を下回っている。
・問題別形式では、「短答式」が全国を上回っている。

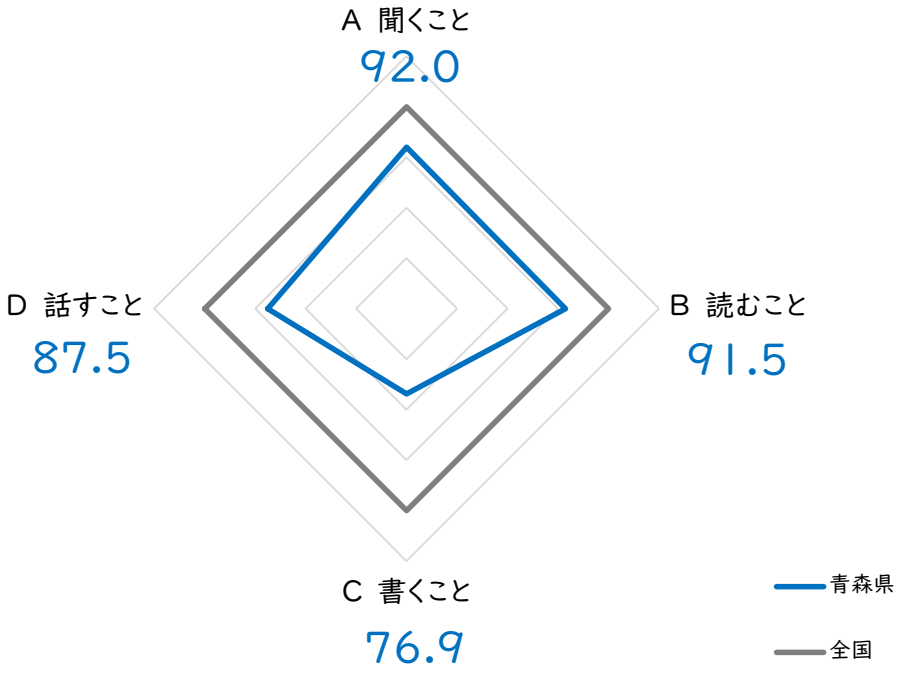
（イ）数学



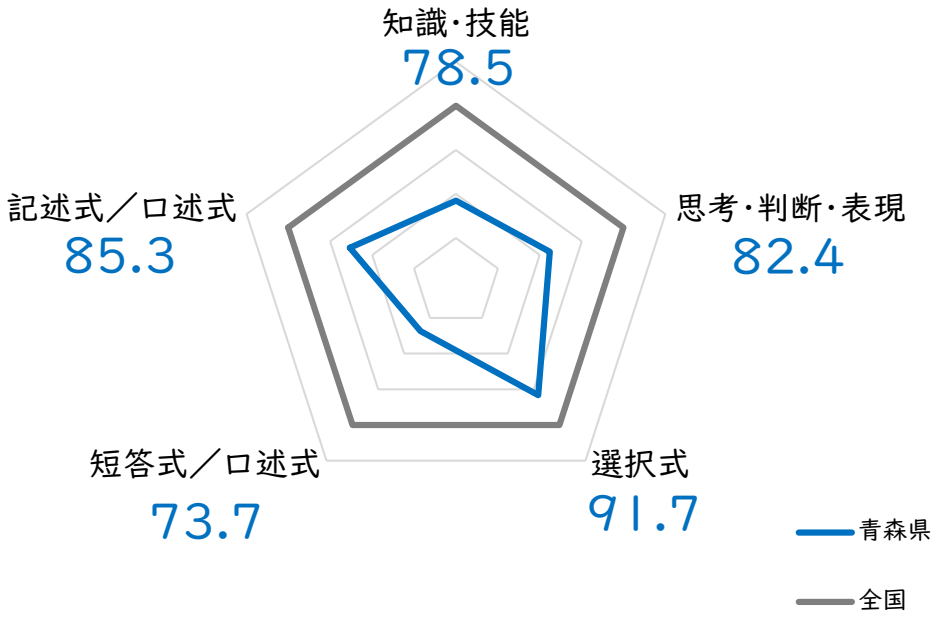


・領域別では、全ての項目で全国を下回っている。
・評価の観点別、問題形式別では、全ての項目で全国を下回っている。

（ウ）英語



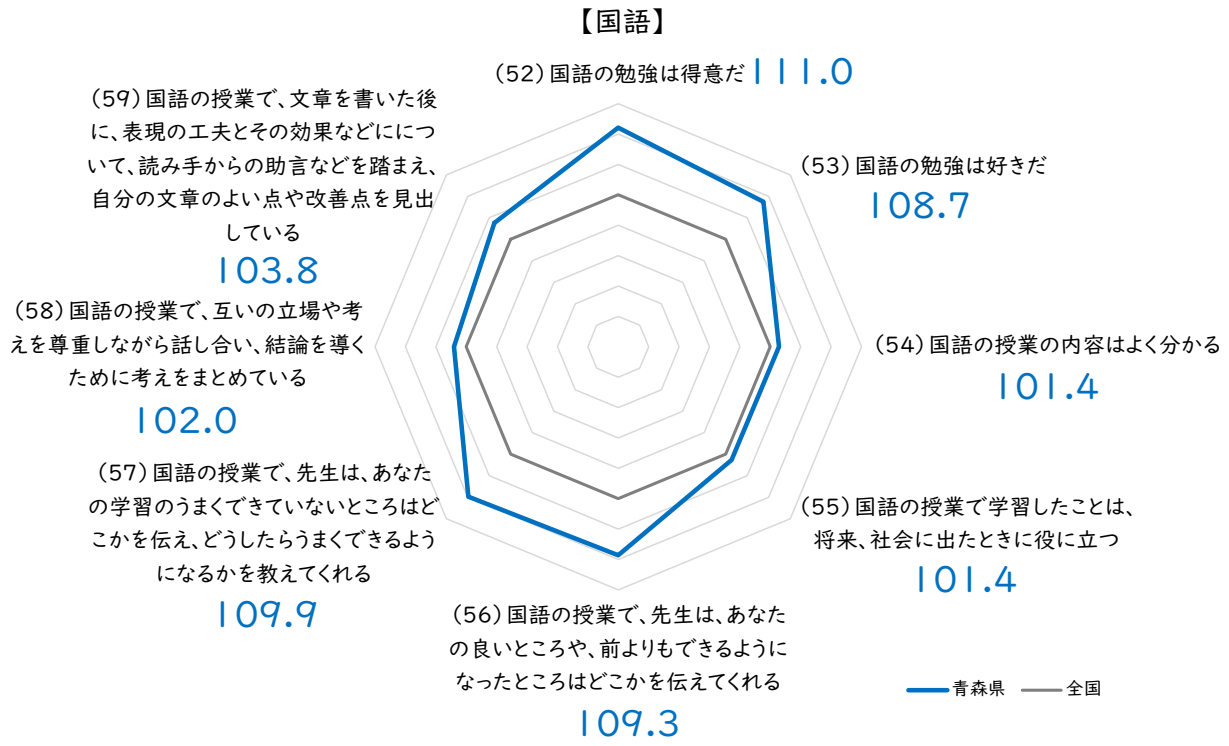
※「D 話すこと」のみ、全国（国公私立）での公表であった。



※公開問題のみの集計のため、参考値として分析をしている。

・領域別では、全ての項目で全国を大きく下回っている。
・評価の観点別、問題形式別では、全ての項目で全国を大きく下回っている。

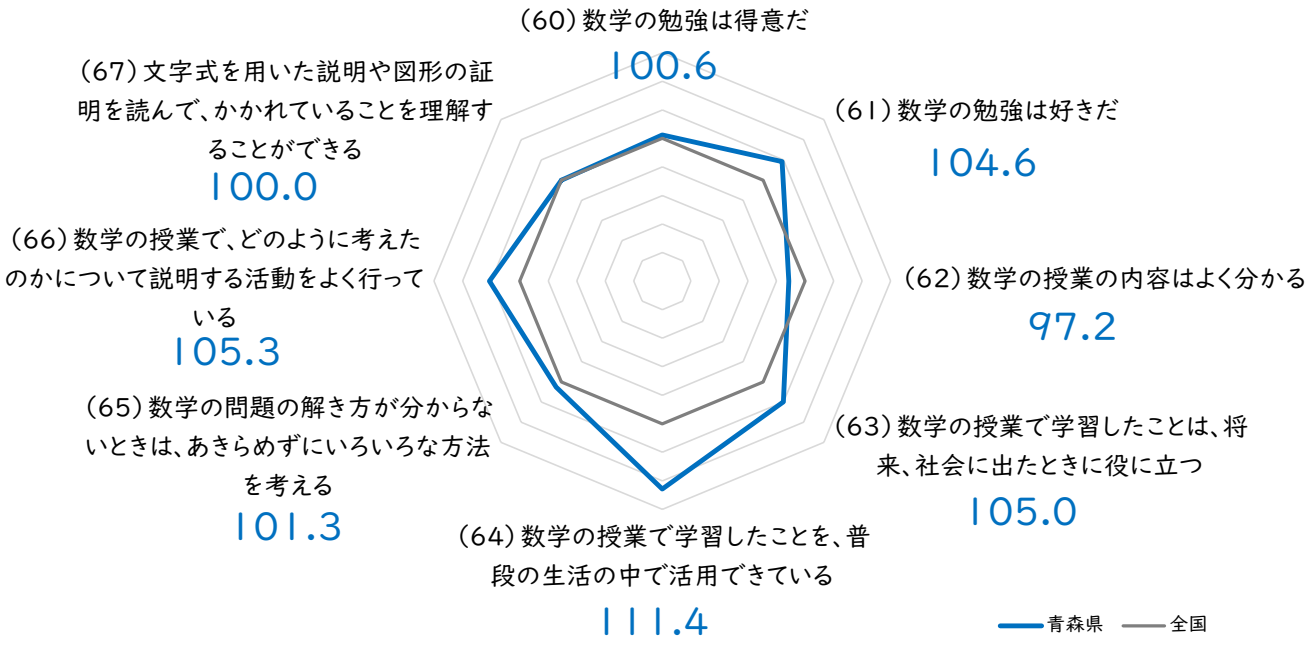
3 生徒質問調査



【国語】
・全ての項目で肯定的回答の割合が全国を上回っている。

○本県生徒の国語学習に対する興味・関心の高さや授業の理解度等は概ね良好な状況と捉えられる。この結果から、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善が行われていると生徒は受け止めていることが考えられる。
○特に、個に応じた指導を含めた形成的評価に関する項目（(56)、(57)）においては、全国を大きく上回っていることから、指導と評価の一体化の視点による授業改善に取り組むことで、生徒の達成感や学ぶ意欲が高まっていると考えられる。また、その成果は、(52) (53) について、肯定的回答の割合が全国を大きく上回っている状況につながっていると考えられる。

【数学】



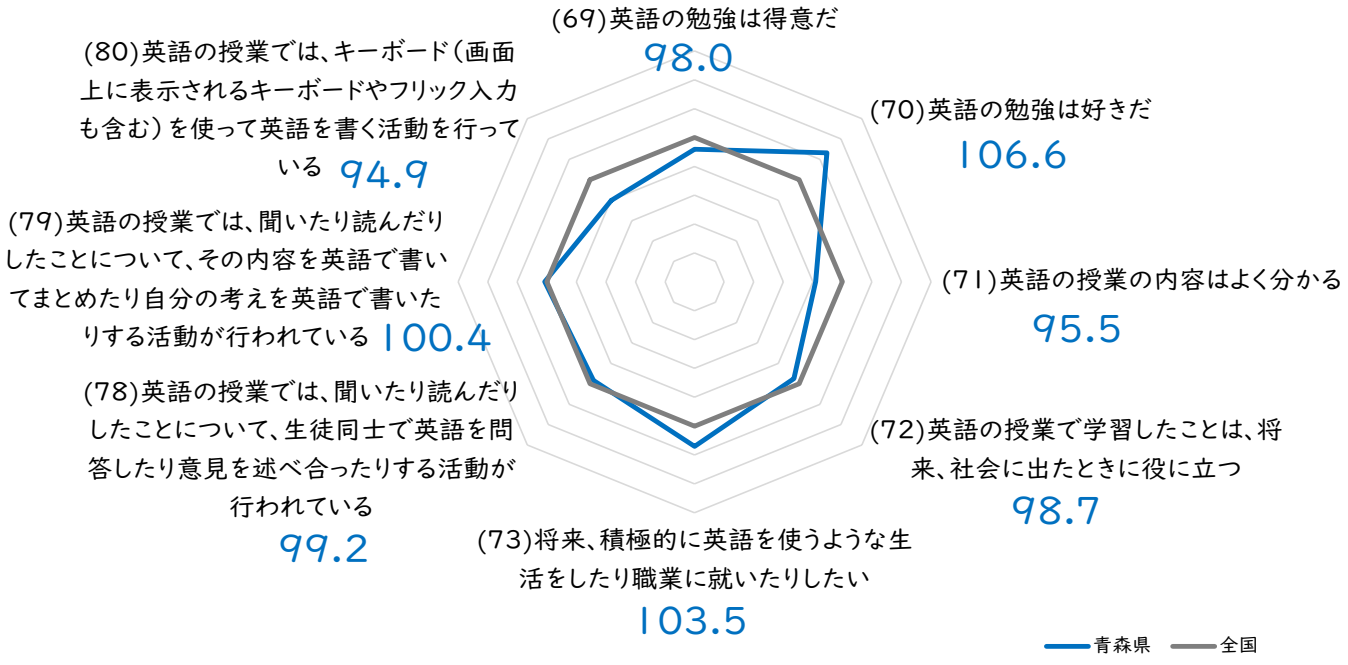
【数学】

・(62)「数学の授業の内容はよく分かる」については、肯定的回答の割合が全国を下回っているが、それ以外の7項目は全国と同じ又は全国を上回っている。

○(62)「数学の授業の内容はよく分かる」については、肯定的に受け止めている生徒の割合が全国を下回っていることから、これまでの指導のよさを生かしつつ、個別最適な学びの視点を取り入れ、一人一人の学習状況に応じた授業改善の取組が必要と考えられる。

○(66)「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている」と答えた生徒の割合は、全国を上回っていることから、自分の考えの根拠を明確にして、説明する活動が授業の中で行われていると、生徒が受け止めていることが考えられる。今後は、これまでの取組を生かしながら、全ての生徒が数学的な見方・考え方を働かせ、根拠を明確にして自分の考えを説明できるよう、指導の工夫をさらに進める必要があると考えられる。

【英語】

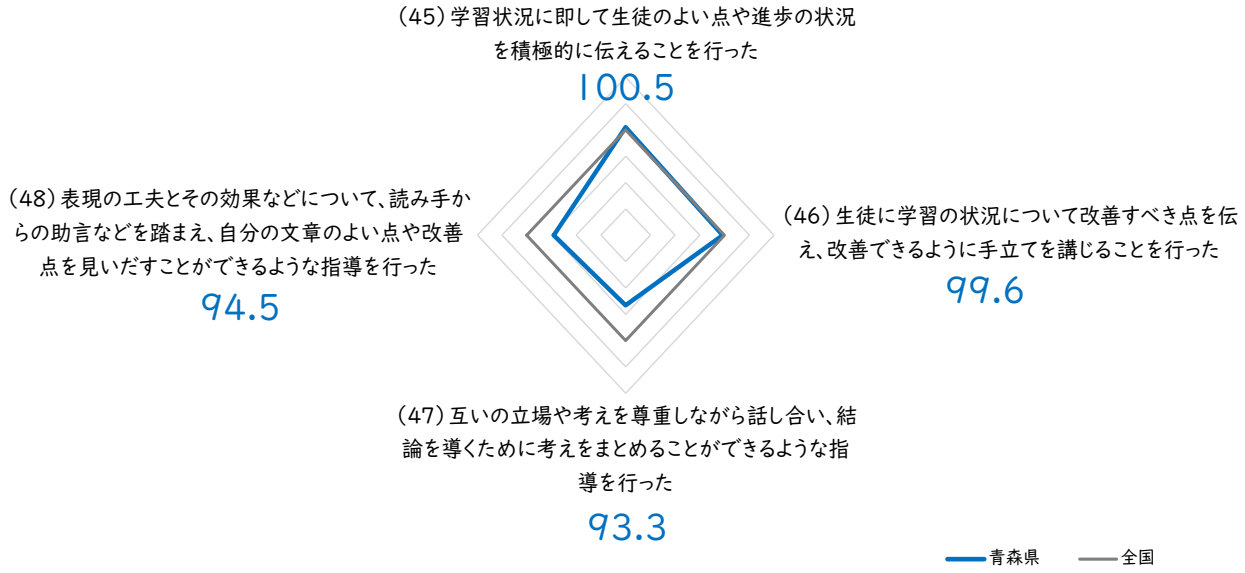


【英語】
・（70）「英語の勉強は好きだ」については、肯定的回答の割合が全国を大きく上回っている。
・（73）「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」については、肯定的回答の割合が全国を上回っている。
・（71）「英語の授業の内容はよく分かる」については、肯定的回答の割合が全国を上回っている。
・（80）「英語の授業では、キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って書く活動を行っている」については、肯定的回答の割合が全国を大きく下回っている。

○「英語の勉強が好きだ」という興味・関心の高さから、コミュニケーションを行う目的・場面・状況を設定するなど授業改善が行われていると考えられる。
○授業で聞いたり読んだりしたことについて、指導の目的に応じて効果的に ICT 機器等を活用して英語で書いてまとめる活動に発展させるなどの工夫が必要と考えられる。
○「英語の授業の内容はよく分かる」について、肯定的に受け止めている生徒の割合は、全国を下回っていることから、これまでの指導を大切にしながらも、 単元を通して身に付けさせたい資質・能力を生徒と共有しながら授業改善に取り組む必要があると考えられる。

4 学校質問調査

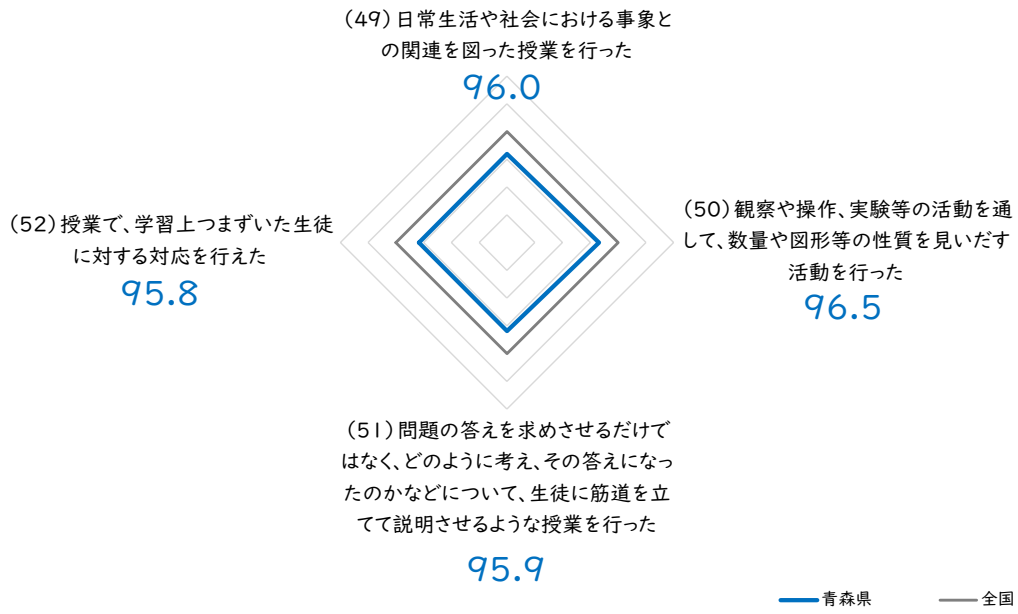
【国語】



【国語】
・(45)「学習状況に即して生徒のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行った」については、肯定的回答の割合が全国を上回っている。
・(46)「生徒に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じることを行った」については、肯定的回答の割合が全国を下回っている。
・(47) 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるような指導を行った」、(48)「表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができるような指導を行った」については、肯定的回答の割合が全国を大きく下回っている。

○(47)に対応する生徒質問調査の(58)は102.0、(48)に対応する生徒質問調査の(59)は103.8である。これらを意図的に指導し、生徒の様子を適切に見取ってフィードバックしていくことで、学びの質を一層高めていくことができると考えられる。
○授業において育てたい資質・能力を明確にして生徒にも示し、生徒が自らの学習を調整できるよう、より一層の指導の充実に取り組む必要があると考えられる。

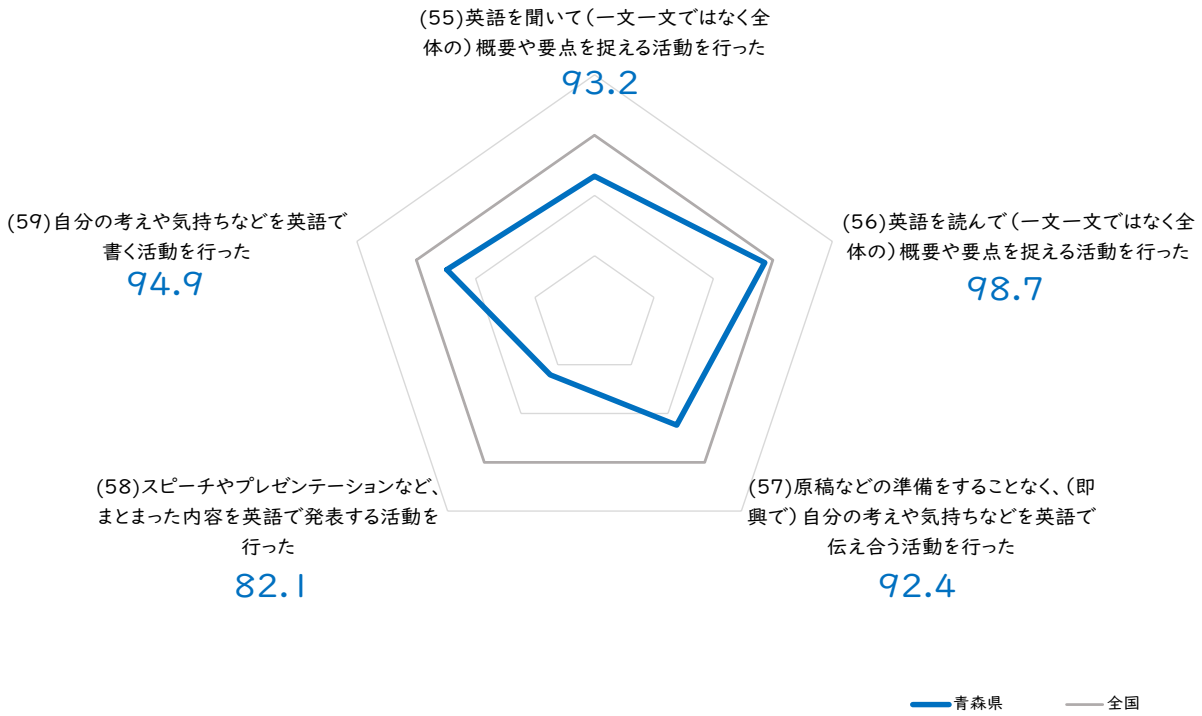
【数学】



【数学】
・全ての項目で肯定的回答の割合が全国を下回っている。

○授業において、学習上つまずいた生徒への支援を充実させるため、個別最適な学びの視点を取り入れ、一人一人の学習状況に応じた指導の工夫を図りながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に引き続き取組が必要と考えられる。

【英語】



【英語】
・全ての項目で肯定的回答の割合が全国を下回っている。

○身に付けさせたい資質・能力を明確にしたうえで、4技能5領域をバランスよく育てていく必要があるそのためにも、単元を通した授業づくりをより一層進めていく必要があると考えられる。
○Small Talk（話すこと［やり取り］）から話すこと［発表］や書くことにつなげるなど、統合的な言語活動を行うことが必要と考えられる。

5 指導改善のポイント

①国語

〔知識・技能〕

◆語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題がある。〔大問4－ニ〕

4 説明的な文章を読んで理解したことをノートにまとめる

一 林さんは、――線部「ほうふつとさせる」を正確に理解するために、「ほうふつ」を国語辞典で調べました。次の【国語辞典に載っていた意味】を読むと、6段落に「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現がいくつかあることに気が付きました。【国語辞典に載っていた意味】を参考にして、それらの表現のうちどれか一つを6段落の中から抜き出しなさい。

【国語辞典に載っていた意味】

ほうふつ【彷彿】❶はっきりと脳裏に思い浮かぶこと。よく似ていること。❷おぼろげなさま。はっきりしないさま。

国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す問題

［第1学年］ 知識及び技能

(1)言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。《語彙》

解答類型と反応率

正答（解答類型1、2）の反応率の合計は35.6%

1 次のいずれかのように解答しているもの
「ありありと映し出している」、「心に思い描く」「包括的に含んだイメージを得る」（12.8%）

2 上記1について、本文中の前後の語句を含んで抜き出したり、一部だけを抜き出したりして、解答しているもの（22.8%）

3 本文中から、上記1、2以外の表現を抜き出して、解答しているもの（41.4%）

99 上記以外の解答（5.0%）

0 無解答（18.0%）

○【解答類型1、2】は、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができている。【解答類型1】は、その際、その語句が文章の中で果たしている役割をより正確に理解できていると考えられる。

●【解答類型3】は、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題がある。

①「ほうふつとさせる」という語句の意味の一部を抜き出しているが、「ほうふつとさせる」の意味の全体を正確に捉えることができていない。【国語辞典に載っていた意味】から「はっきり」「おぼろげ」など「ほうふつ」の意味の一部だけを捉えて解答したものと考えられる。

②「ほうふつとさせる」の文脈上の意味を捉えられず、本文の6段落から同じような内容を表す別の表現を見付けることができなかったものと考えられる。

①の例 「ありありと」「包括的に」「イメージ」
②の例 「ことば以外の部分にもたくさんの意図を託している。」「たくさんの意図を託している。」

令和8年度全国学力・学習状況調査報告書（文部科学省・国立教育政策研究所）から抜粋

〔知識及び技能〕の課題と指導改善のポイント

語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題がある。

語句の文脈上の意味を捉えることの指導に当たっては、まず、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的かつ個別的に捉えることが大切。

語句に着目し、その語句が文や段落においてどのような役割を果たしているかを捉え、その語句と文章中の他の語句との関係を考えることも重要。

生徒たちの語感を磨き語彙を豊かにしていくために、指導例（青森県教育委員会）を教材として授業で活用してみませんか。今年度は事象や行為、心情を表す語句を調べたり話し合ったりしながら吟味する学習活動について紹介しています。主体的・対話的で深い学びを実現できるよう学習指導を改善していきましょう。

生徒自身が、学習を通してどのような資質・能力を身に付けるのかを意識し、またできるようになった喜びを実感できるようにしたいですね。



《指導例》
（写真は令和7年度のもの）



【コラム】国語辞典を活用する

教師：国語辞典を使う際に、言葉の意味を確認するだけで終わりにしていませんか？国語辞典は単に言葉の意味を調べるためのものではなく、語彙を豊かにするための強力な味方とすることもできます。有効に活用するには、特に以下の3点に留意しましょう。

〔国語辞典の例〕



① 一つ一つの語句の意味には広がりがあり、国語辞典では❶――❷――のように示されています。国語辞典を活用するときには、一部の意味だけを見るのではなく、その言葉の全体を捉えることが大切です。その上で、文章の中でその語句がどのように使われているかを確認するなどして、その語句を自分の語彙にしていくことが大切です。

② 見出し語について、意味だけでなく、用法や例文に目を通すことも大切です。国語辞典に示されている用例には、その語句の実際の使用例を基に、自然な使い方、典型的な使い方が示されています。語句を学習するときには、意味を知るだけでは不十分であり、話や文章の中での使い方も合わせて確認しましょう。こうすることで、知っている言葉を使いこなせる言葉にし、自分の表現を豊かにすることができます。

③ 類義語、対義語などの関連語に目を向けることも大切です。国語辞典を使うたびに、関連する語句を自分の語彙の中に少しずつ増やしていくことで、語句同士のつながりが見えてきます。すなわち点が線となり、語彙が豊かになっていくのです。

このように国語辞典の特徴を理解して活用することは、言葉への理解を深め、自分の語彙を豊かにしていくことにつながります。漢和辞典や類語辞典など、他の辞典についてもその特徴を理解して活用できるようにすることが大切です。これからも意識して活用していきましょう。

②数学

〔本県の結果のポイント〕

○平均正答率が高い問題

「数と式」の平均正答率は他の領域の平均正答率より高く、また、評価の観点における「知識・技能」および選択式短答式問題の平均正答率も高い。

特に、6(1)問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかを見る問題の正答率は、全国平均より高い。

問題番号	正答率	無解答率
1	84.3	0.4
6(1)	74.0	6.6
7(1)	74.2	6.2
9(2)	74.8	0.7

▼すべての領域の記述式の問題に課題が見られる。

特に、無解答率が25%を上回っており、問題解決の見通しを持つことができない生徒がいると推測される。

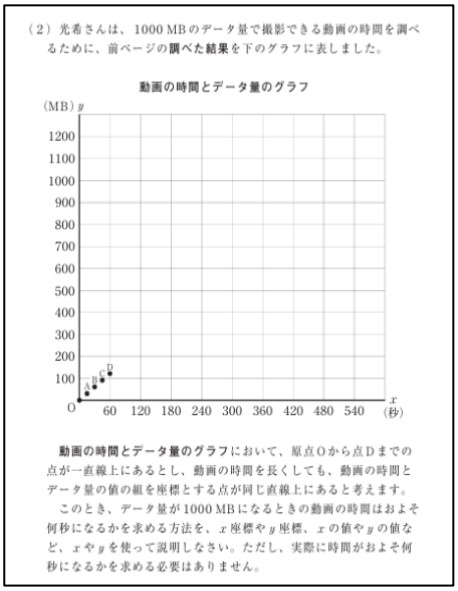
問題番号	正答率	無解答率
6(3)	42.7	25.6
7(2)	31.2	41.3
8(2)	36.4	25.1
9(3)	30.9	27.6

・結果のポイント①

7(2)数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

指導改善のポイント

・関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見いだし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察するとともに、その関係を数学的に表現する活動を充実させることが大切である。
・問題解決の見通しを立てる場面で、自分が考えた解決方法を表現したり、問題解決を振り返る場面で、どのような方法で解決したのかをまとめたりする機会を、日頃の授業から計画的に設定することが大切である。
・生徒の表現を出発点として、問い返しや比較、補足などの働きかけを通して、考えをより筋道の通った数学的な表現へと高める指導の工夫を行う必要がある。


（2）光希さんは、1000 MBのデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、前ページの**調べた結果**を下のグラフに表しました。

動画の時間とデータ量のグラフ

動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。

このとき、データ量が1000 MBになるときの動画の時間はおよそ何秒になるかを求める方法を、x座標やy座標、xの値やyの値など、xやyを使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

・結果のポイント②

8(2)作図によってできた図形について、見いだした事柄が成り立つことを、筋道を立てて考え、証明することに課題がある。

指導改善のポイント

・根拠を明らかにして説明し、互いの考えを伝え合う活動を通して、数学的な推論の過程を分かりやすく表現する力を育てることが大切である。
・証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を、数学的に表現できるようにすることが大切である。
・生徒の不十分な表現も学びの過程として受け止め、その考えを生かしながら、より筋道の通った数学的な表現へと導く指導の工夫を行う必要がある。

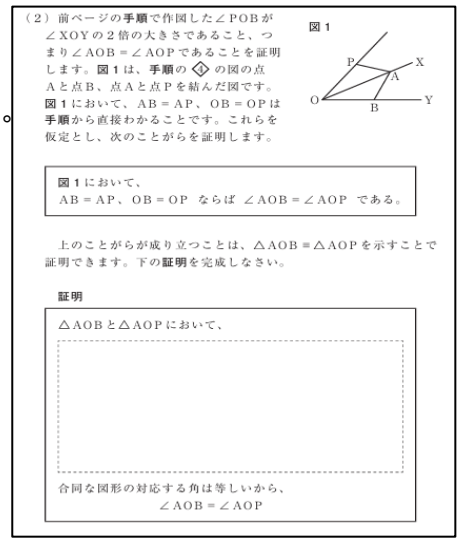

（2）前ページの**手順**で作図した∠POBが∠XOYの2倍の大きさであること、つまり∠AOB＝∠AOPであることを証明します。**図1**は、**手順**の◇の図の点Aと点B、点Aと点Pを結んだ図です。**図1**において、AB＝AP、OB＝OPは**手順**から直接わかることです。これらを仮定とし、次のことがらを証明します。

図1

図1において、
AB＝AP、OB＝OP ならば ∠AOB＝∠AOP である。

上のことがらが成り立つことは、△AOB≡△AOPを示すことで証明できます。下の**証明**を完成しなさい。

証明

△AOBと△AOPにおいて、

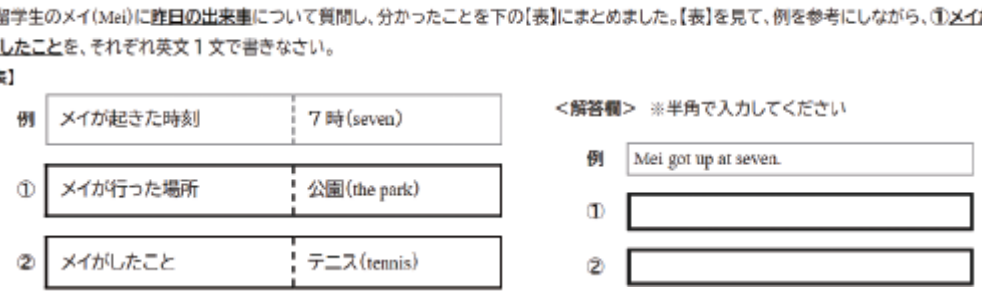
合同な図形の対応する角は等しいから、
∠AOB＝∠AOP

③英語

○特に全国との正答率の差が大きい問題

大問１１①〔書くことア：知識・技能〕・正答率　青森県49.5%（全国58.9%）

大問１１②〔書くことア：知識・技能〕・正答率　青森県44.2%（全国52.7%）



○【出題の主旨】音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

大問１１①

解答類型		反応率（県）	反応率（全国）	正答
1	不規則変化の過去形を用いて正しい語順で解答	38.1	45.2	◎
2	大文字・小文字の書き分けなどに誤りがあるが、解答類型１に準じて解答	6.8	8.6	◎
3	余分な語や抜けている語などの誤りがあるが、解答類型１に準じて解答	4.5	5.1	○
8	現在形や現在進行形、完了形などを用いて解答	25.1	19.0	
	その他誤答となる解答類型及び無解答	25.5	22.1	

大問１１②

解答類型		反応率（県）	反応率（全国）	正答
1	不規則変化の過去形を用いて正しい語順で解答	33.3	40.1	◎
2	大文字・小文字の書き分けなどに誤りがあるが、解答類型１に準じて解答	7.6	9.1	◎
3	余分な語や抜けている語などの誤りがあるが、解答類型１に準じて解答	3.3	3.5	○
8	現在形や現在進行形、完了形などを用いて解答	18.5	14.9	
	その他誤答となる解答類型及び無解答	37.3	32.4	

○授業改善のポイント

指導に当たっては、場面と関連付けて文法事項などを活用して英語を書く活動や、文法事項をまとめて整理するための時間を設定し、適切な表現を選択して英語を書く活動に取り組むなど工夫が求められる。また、それらの活動を支えるための視点として以下の点に着目して授業改善を図ることが望ましい。

□アウトプットの量（活動時間）を十分確保しているか

□生徒同士がピアフィードバックする際には確認する視点を与えているか

□言語活動における中間指導は適切に行われているか

□和文英訳だけでなく、メモをもとに英語を書く活動を行っているか

□Small Talk（話すこと［やり取り］）から書くことにつなげるなど、統合的な言語活動を行っているか

□ポートフォリオを活用して生徒が成長を実感できるような言語活動が行われているか